

2022年度サピエ研修会にいただいた質問と回答
佐藤聖一 回答文

質問者 熊本県立図書館

【質問内容】

県域の公共図書館より、ボランティア団体が作成している録音カセットの寄贈申し出があったとのことで、

- (1) 寄贈を受け入れることに問題はないか
- (2) 寄贈されたカセット音源を CD 音源として焼き直すことに問題はないか
- (3) 市販の録音 CD とのすみ分けもしくは、販売されているか確認する必要などがあるか

との質問がありました。

当館としては、読書バリアフリー法にもとづく利用者への提供が前提であれば、問題や確認の必要はないとの見識ですが、見込みに相違ないでしょうか。

【回答】

質問は、著作権法上で問題がないかと、実際のサービスとして実施してよいかの二つの観点で考える必要があります。

まず、著作権法第37条第3項で問題があるかどうかについて。

「ボランティア団体が作成している」とありますが、「ボランティア団体が自主的に製作している」のか「図書館等がボランティア団体の協力を得て製作している」かが問題となります。

仮にボランティア団体が自主的に製作していたら、その団体が政令指定団体であるか、サートラスのリストに登録している必要があります。そのどちらでもない団体が自由に（勝手に）製作していたら製作そのものが違法行為になりますのでご注意ください。

ここでは、図書館の指示を受けてボランティア団体が製作しているテープ図書であると仮定します。つまり、図書館が37条第3項で製作したものです。（実際テープの中でも、そうアナウンスしている）

となると、寄贈受け入れやデージーへの変換の前に、「同じものが販売されているかどうかの確認」が必要です。といっても、おそらくカセットテープでの販売はされていないと思いますので、それはなしでしょう。

寄贈の受け入れ→○ デージーへの変換→おそらく（○）ただし、同じものがデージーで販売されている場合はできない。ということになります。なお、ご質問では「デージーへの変換」ではなく、「CD 音源として焼き直す」とあります。これがデージーではなく音楽 CD 形式のような単純な音であるとしたら、市販のオーディオブックなども同じ形式に該当しますので注意してください。

次にボランティア団体が違法に製作している場合です。常識的には違法な複製物を利用することは好ましくありません。つまり、寄贈の受け入れはできません。ただ、図書館が新たにデイジーを製作するにあたり、あるボランティアが読んだ音源を利用することはできなくはありませんので、ここで新たにデイジーを製作するということで行うのがよいでしょう。（製作上で注意することは後述します。）

次に実際に行うかどうかについて。

カセットテープのままですと、ほぼ再生環境がありませんので、寄贈を受ける意味がありません。そこでご質問のようにデイジー化されることはよいことだと思います。（法律上の問題は前述）

それでまず、原本が入手できないとデイジー変換ができませんので、現実は無理ということになります。

次に、全国のどこかですでに同じものがデイジーで製作提供されているとしたら、わざわざ同じものをカセットからデイジーにする必要はありません。（ただし、カセットの音訳がとてもすばらしく、逆に既存のデイジーの音訳がそうでない場合は、製作を検討してもよいかもしれません。）

結論としては、全国どこにも同じものが製作されておらず、原本が入手できる場合は、寄贈を受け入れて（もしくは音源のみをもらって）デイジーを製作して提供するのがよいということになります。なお、その場合でも、表紙の説明や図表の説明などが入っていない可能性が高いですので、それらを補って作ってください。もちろん、音訳が稚拙、校正がなされていない、誤読やアクセントの間違いが多い等の、視覚障害者等に提供するにふさわしくない場合はやめてください。また、単純な音楽 CD 形式で製作するのはだめとはいいいませんが、いろいろな意味で迷惑なのでお勧めしません。